

平成10年 9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

廃寺になった寺々

明治22年町村制試行の政策が取られ、青梅でも小さな村々が大きな村に合わさりました。調布村もその一つです。駒木野、上長淵、友田、河辺、千ヶ瀬の村の総称が、調布村です。調布と名の付く地名は、田園調布、調布市、そして青梅の調布村等があります。名の由来は万葉集の「多麻川にさらす調布さらさらに何ぞこの娘のここだ悲しき」にある調布（たづくり）の字から来ているといえます。その青梅の調布村にはたくさんの寺がありました。しかしいろいろな事情により、今に伝わらない寺があります。そのいくつかを見たいと思います。

駒木野にあったのが、大澤山廣濟寺です。このお寺は、臨済宗建寺派で長淵の玉泉寺の末寺でした。明治35年に玉泉寺と合寺になったといえます。新編武蔵風土記稿（以下、風土記と記す）には、開山は俊嶺和尚で文明3年（1471）1月5日に亡くなったと有ります。本尊様は延命地藏菩薩の木像で仏師の春日という人の作です。また七間半に五間の客殿があったと書かれています。今の駒木野保育園のあたりがその跡地と伝えられています。

次に上長淵には、岸奉山永福寺という寺がありました。ここも臨済宗建長寺派で玉泉寺の末寺でした。風土記には開山は古溪和尚で文明15年（1483）1月3日に亡くなりました。本尊様は木像の虚空蔵菩薩で、その台座には寺の由来や寄進した人の名が書かれ、大檀那平憲清とあります。この人物は友田の花蔵院所蔵の市有形文化財の鰐口にも寄進者として書かれている三田氏の一族の人です。明治2年や明治4年の時の上長淵村明細帳に永福寺の事が書かれているので、そのころまでは寺があったと思えます。

下長淵の2丁目に有る須高川に架かる須高橋の近くに、法蓮寺墓地と呼ばれる墓地があります。ここには宝林寺というお寺がありました。風土記には村内玉泉寺末とあるので、臨済宗長寺派の寺で、明身山という山号で開山は夢窓国師なりというが、この国師は当時著名な高層なので本人でなく、その弟子が開山で徳を偲んで名のみを開山にしたのではないかと有ります。また本堂は七間の四間東向きで建てられ、本尊様は木像で二尺の大きさの虚空蔵菩薩の坐像と有ります。市の有形文化財に指定されている「旧宝林寺文書」はこの宝林寺にあったというもので、3通残っており2通は応永25年（1418）のもので、市内最古の書状として貴重なものです。一つは、三田朝貞が家と田を寄進することが書かれ、もう一つは三田氏と宝林寺との間で行われた土地売買の得度を沙弥の勝千が寄進することが書かれています。又もう1通は嘉吉2年（1442）に瑞長小僧を宝林寺の次の和尚として、梵秀が補任することが書かれています。他にも宝珠院、如意寺、観蔵院、瑞竜院などが長淵に、柏樹庵、長泉寺が千ヶ瀬に光岸寺が友田にありました。

（文責 棚橋）